



十一月(小)

しもつき
霜月

井宿

十一月七日立冬の節より
月命丁亥八白土星の月
暗剣殺東北方

旧 十月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	其宿	下段	日出	月出	満潮	干潮
1日	日	つちのえさる	四緑	灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日、天しや 一の酉、唐津くんち、一粒万倍日、不成就日 旧九月小	十六	赤口	ひらく	虚	よろづよし	6.03	16.46	17.19	6.14
2日	月	つちのととり	三碧	不成就日	十七	先勝	とづ	危	神よし	6.04	16.45	17.50	6.14
3日	火	かえいぬ	二黒	明治神宮例祭、東京足立區沼不動万灯祭	十八	友引	たつ	室	大みょう	6.05	16.44	17.50	5.19
4日	水	かのと	一白	消費者センター開設記念日	十九	先負	のぞく	壁	百事吉	6.04	16.43	18.26	6.14
5日	木	みづのえね	九紫	世界津波の日、八せん始め	廿	佛滅	みつ	奎	天おん	6.06	16.42	19.07	6.14
6日	金	みづのとうし	八白		廿一	大安	たいら	婁	十し	6.07	16.41	19.55	6.14
7日	土	きのえとら	七赤	立冬八時一四分	廿二	赤口	たいら	胃	月とく	6.08	16.40	20.49	6.14
8日	日	きのと	六白	立冬八時四分 ●下弦二時四分、世界都市計画の日、ふいご祭、京都伏見稲荷火焚祭、京都松尾大社上卯大祭、京都嵐山紅葉祭、京都空也堂開山忌	廿三	先勝	さだん	昴	神よし	6.09	16.39	21.48	6.14
9日	月	ひのえ	五黄	一九番の日、太陽暦採用記念日	廿四	友引	とる	畢	大みょう	6.10	16.38	22.52	6.14
10日	火	ひのと	四緑	不成就日	廿五	先負	やぶる	觜	くま日	6.11	16.37	23.58	6.14
11日	水	つちのえま	三碧	世界平和記念日	廿六	佛滅	あやぶ	参	神よし	6.12	16.36	—	6.14
12日	木	つちのえま	二黒		廿七	大安	なる	井	大みょう	6.13	16.35	1.06	6.14
13日	金	かえさる	一白	秋の全国火災予防運動(9日、15日)、庚申	廿八	赤口	おさん	鬼	●	6.14	16.34	1.06	6.14
14日	土	かのと	九紫	二の酉、一粒万倍日	廿九	先勝	ひらく	柳	十し	6.15	16.33	1.06	6.14

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化したり、月半ばには霜が降りることがある。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りがないようにチェックしよう。

【冠】十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんなに古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳の祝い(袴着)は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女兒の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	其宿	下段	日出	月出	満潮	干潮
15日	日	みづのえいぬ	八白	●朔一四時〇七分、一般鳥獣狩猟解禁、七五三、一粒万倍日、十月大	朔	佛滅	とづ	星	ぶく日	6.17	16.34	5.54	6.17
16日	月	みづのと	七赤	旧亥の子餅、炬開き、八せん終り、三隣亡	二	大安	たつ	張	くま日	6.18	16.34	7.10	6.17
17日	火	きのえ	六白	将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式、甲子、天しや	三	赤口	のぞく	翼	よろづよし	6.19	16.33	8.23	6.17
18日	水	きのと	五黄	不成就日	四	先勝	みつ	軫	くま日	6.20	16.32	9.31	6.17
19日	木	ひのえとら	四緑	一茶忌	五	友引	たいら	角	天おん	6.21	16.32	10.16	6.17
20日	金	ひのと	三碧		六	先負	さだん	亢	神よし	6.22	16.31	11.22	6.17
21日	土	つちのえま	二黒	京都東本願寺報恩講(28日迄)、豊川稲荷秋季大祭、近松忌	七	佛滅	とる	氐	天おん	6.23	16.31	12.04	6.17
22日	日	つちのと	一白	小雪五時四〇分、●上弦一三時四五分、	八	大安	やぶる	房	くま日	6.24	16.30	12.39	6.17
23日	月	かえうま	九紫	●勤労感謝の日、熊本八代妙見祭、笠間稲荷秋穀献納祭、大つち	九	赤口	あやぶ	心	くま日	6.25	16.30	13.10	6.17
24日	火	かのと	八白	とおかみや、島根出雲大社神迎祭	十	先勝	なる	尾	大みょう	6.26	16.30	13.37	6.17
25日	水	みづのえさる	七赤	神道修成派教祖教霊大祭	十一	友引	おさん	箕	●	6.26	16.29	14.03	6.17
26日	木	みづのと	六白	三の酉、一粒万倍日、不成就日	十二	先負	ひらく	斗	十し	6.27	16.29	14.28	6.17
27日	金	きのえいぬ	五黄	一粒万倍日	十三	佛滅	とづ	牛	月とく	6.28	16.29	15.09	6.17
28日	土	きのと	四緑	税関記念日、東京品川千体荒神大祭、親鸞聖人忌、防府天満宮裸坊祭、三隣亡	十四	大安	たつ	女	ちいみ	6.29	16.28	15.52	6.17
29日	日	ひのえ	三碧		十五	赤口	のぞく	虚	ぶく日	6.30	16.28	16.28	6.17
30日	月	ひのと	二黒	●望一八時三〇分	十六	先勝	みつ	危	大みょう	6.31	16.28	17.02	6.17

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。

【祭】三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治の日」といって、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支(えと)による酉の日は「お酉さん」とも「酉の市」ともいって、驚(おおとり)明神の祭礼が行われる。開運の神として一の酉、二の酉、三の酉、と盛大であるが、三の酉までである年は、活気がありすぎて火事が多いといえらる。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまでしばしば旧暦という言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。